

講習科目名	【必修】教育の新事情	実施期日	8月16日(月)
時間数	6時間(内試験60分)	講習形態	講義形式
主な受講対象者	更新講習受講者全員	受入人数	150人
担当教員	渡辺 通子(文学部 教授) : 1限目 小林 信重(教養学部 准教授) : 2限目 萩原 俊彦(教養学部 准教授) : 3限目 平野 幹雄(教養学部 教授) : 4限目 泉山 靖人(教養学部 准教授) : 5限目 平野 幹雄・泉山 靖人 : 6限目		
講習の到達目標 (成績評価の観点)	・世界の教育の動向や国の教育政策の動向を把握し、新学習指導要領の理念と内容を理解している。 ・学校や子どもを巡る環境の変化と子ども像の変容について理解し、学校や教員に何が期待されているのか理解を深めている。		
講習の概要	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の各事項について、幼小中高教員を対象として、教員に求められる教育的・心理学的・社会的知識・技能を習得するとともに子どもをめぐる今日的課題の実践的理解をめざして講義形式(各60分)で実施する。		
講習計画	各講義のテーマと内容は次の通りである。 ・1限目「 教育行政をめぐる動向と世界の教育改革 」 担当 渡辺 通子(教育学、教科教育学) コロナ禍のなか、新学習指導要領が小学校・中学校において全面実施となった。次年度は高等学校において実施となる。今後は、GIGA スクール構想も加速度を増して進められるだろう。また、各国においては新しい学力観が検討されている。こうした教育を取り巻く環境の急激な変化と教育政策の動向を踏まえ、この講義では、変化する社会の中で教育が直面している課題を確認する。新学習指導要領の枠組みとされる6つの視点に沿いながら、その方向性の特徴を確認し、幼小中高を見通した学校現場における今後のあり方について考える。 ・2限目「 子どもたちの情報行動と人間関係 」 担当 小林 信重(社会学、メディア・コミュニケーション) 児童・生徒をとりまく情報環境は技術の進歩とともに近年大きく変化している。特にスマートフォンなどの情報端末やソーシャルメディアの普及は、子どもたちの情報行動や人間関係に長短両面の影響を与えていると考えられる。この講義では、子どもたちの情報環境の現状を概観し、それらの有効な利用や課題について論じる。 ・3限目「 児童・青年の発達から見るキャリア教育 」 担当 萩原 俊彦(発達心理学) グローバル化や技術革新による社会変動の激しい現代においては、キャリアを「自ら作り上げる」力をつけるキャリア教育が求められる。この講義では、児童・生徒の発達とキャリア教育の取り組みとの関わりについて理解し、社会への適応に		

	<p>留まらず自分の生き方を舵取りできるキャリア形成のあり方とその支援について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 限目「心理発達とその障害に関する最新知見の理解」 担当 平野 幹雄（特別支援教育学、教育心理学） 子どもの心理発達とその障害、あるいは偏りを理解することは、彼らへの具体的な支援を構築していく上で重要である。この講義では、発達障害への心理学的な理解を深めることを目的として、脳機能との関係などの最新知見を含む発達障害に関する諸理論について論じる。 ・ 5 限目「現代における学校教育と教員のあり方を考える」 担当 泉山 靖人（教育学・教育制度論） 現代において、教師に求められる能力は多岐にわたっている。この講義では、これまでの教育改革の経緯を概観し、その中で描かれた教育観・教師像を示すとともに、社会（国民）が学校教育と教員に対しどのようなイメージを持っているのかを検討する。さらに、海外における教師像をもふまえつつ、現代における学校教育と教員のあり方を考える。 ・ 6 限目 筆記試験
<p>評価方法</p>	<p>講義で得た知見を参考にしながら、講習後の指導実践に活かしていきたい視点や具体的な取組みについて論述していただきます。その際、配付プリントやノート等の持ち込みは自由とします。到達目標に照らして採点し、100点満点の60点以上を合格として履修認定します。</p>
<p>教材・参考文献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全講義でプリント資料を配付予定である。 ・ 各講義の参考文献は以下のとおりである。 <p>1 限目（渡辺）：『学習指導要領 総則編』（平成 29 年，30 年） 松尾知明『21 世紀型スキルとは何か』（明石書店，2015.）</p> <p>2 限目（小林）：藤代裕之（編）『ソーシャルメディア論・改訂版』（青弓社.）</p> <p>3 限目（萩原）：下村英雄『キャリア教育の心理学—大人は、子どもと若者に何を伝えたいのか』（東海教育研究所，2009.）</p> <p>4 限目（平野）：杉山登志郎著『発達障害の子どもたち』（講談社現代新書，2007.）</p> <p>5 限目（泉山）：中央教育審議会答申、教育再生実行会議提言など</p>
<p>受講者に望むこと</p>	<p>幼小中高を対象とした内容となります。学校教育に係る日頃の悩みや関心等を整理し明確にしてご参加ください。</p>
<p>備考</p>	